



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2023年
7月7日
発行

第185回

「動き出した非製造業」

～日銀短観から読む～

初めに

前回の当レポートでは、設備投資が活発化している製造業について今後期待が持てる、ということをお話しさせていただきました。それに比べ非製造業は出遅れていると思っていましたが、ここにきて動き出したようです。今回は、こうした非製造業の動きを紹介します。

日銀短観

7月3日に、6月の日銀短観が発表されました。大企業・製造業の景況感を示す業況判断指数(DI)が、前回3月調査のプラス1からプラス5に改善しました。価格転嫁の進展や原材料コスト高の一服、自動車生産の回復が好影響を与えたためとみられています。自動車は半導体不足が緩和して生産が回復し、前回のマイナス9からプラス5に改善しました。また、大企業・非製造業の業況判断DIは前回のプラス20からプラス23に改善。中でも、新型コロナウイルス感染症の影響の緩和やインバウンド需要の回復を受け、宿泊・飲食サービスが0からプラス36に改善しました。これは、2004年3月の調査開始以来の最高水準で、改善幅も最大となっているとのこと。

非製造業も有望と思われる理由

非製造業を取り巻く環境も改善していると考えられる理由はいくつかあります。例えば、インフレが落ち着いてきていることです。インフレによる原材料コストの上昇が非製造業にとって重石となってきましたが、米国を始めとする各国政府の利上げにより、以前に比べ問題になる場面は少なくなったと思います。今後、植田日銀総裁が異次元緩和の修正に乗り出すのではないかと、との観測も多いようですが、そうなれば日本でもインフレは緩和されることになり、非製造業にとっても追い風になることが期待できます。

リベンジ消費

最近の消費者は高額商品にも目を向けているようです。コロナ禍やインフレなどで消費を抑えたことへのご褒美として「リベンジ消費」と呼ばれています。7月4日付の日本経済新聞によると、そごう・西武の6月30～7月2日の全店売上高は前年比10%増で、高額品分野に絞ると売上高は25%増と高額品がけん引している構図、とのこと。また、百貨店での購入だけでなく、国内外における旅行も好調と報じられています。HISは7月5日、夏休み期間の海外旅行の予約数が2022年の7倍になったと発表しました。

このように、製造業だけではなく非製造業においても今後の景気加速が見えてきたようです。株式市場では、外食・旅行などに注目することが考えられるでしょう。



チーフストラテジスト
門司さんにきいてみよう!



西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等のご遠慮ください。